Ⅰ 実践

1 研究主題

互いを認め合い，思いやりや助け合いの心を育てる人権教育の在り方

（1） 主題設定の理由

本校では，めざす児童像の実現に向け「元気 UP プロジェクト」「学び UP プロジェクト」「笑顔 UP プロジェクト」と，３つのプロジェクトチームを全職員により構成し各種教育活動を展開している。その中でも，人権教育に関係が深いのは，「笑顔 UP プロジェクト」である。児童の心を豊かに育むための活動として，あいさつ運動の推進，豊かな体験を通した実践的な道徳教育の充実，望ましい集団活動を通した特別活動の充実，特別支援教育の充実などが挙げられる。これらの教育活動を通して，一人一人がお互いの良さを認め合い思いやりの気持ちをもって，ともに助け合うことのできる児童を育てたいと考えた。

また，水木地区は，古い歴史があり，地域の人々も伝統を重んじる気持ちが強い。地域の方々や保護者は，地域の歴史を大切にしている。そこで，児童一人一人が心を通わせ，助け合いながら新しい伝統を築いてほしいと願い，本主題を設定した。

（2） 研究の内容

ア 人権意識を育む体験活動
イ 地域の行事への参加
ウ 人権に関する啓発活動

2 実践内容

（1） 人権意識を育む体験活動

ア 中学校や PTA と連携したあいさつ運動

本校では毎朝，生活委員会の児童と教職員が昇降口付近に立ち，登校してくる児童にあいさつ運動を実施している。生活委員会の児童が，大きな声で元気に言葉をかけるので，あいさつが苦手だった児童も少しずつ元気にあいさつが返せるようになってきている。また，学期ごとにマナーアップ週間の時期に合わせて泉丘中学校の生徒や PTA の役員と連携したあいさつ運動を展開し，効果をあげている。

あいさつ運動

イ いじめ 0（ゼロ）集会

児童集会で，毎年 6 月に実施している。いじめがなぜいけないことなのか，自分がいじめをされたらどうするか，いじめを目撃してしまったらどうするかなどを，各学年の発達段階に応じて学級で話し合っている。集会では，「いじめをしない」という誓いを立て，「いじめ 0」シールを胸章の裏に貼る。そして，学級ごとに話し合って決めた「いじめのちかい」を発表する。集会後は自分の決意を『めばえノート』に記入している。

さらに，学校だより，学年だよりなどで「いじめ 0（ゼロ）運動」の取り組みの様子を保護者に知らせ，理解啓発を図っている。

いじめ 0 集会

ウ のびのびタイム＜縦割り異学年交流＞

月に１回程度，ロングの昼休みに１年生から６年生まで縦割り班で交流する活動である。６年生が班長になり，下級生の意見を聞きながら遊びを決めている。それぞれ１２班に分かれた班ごとに，ドッジボールや大縄，リレー，鬼ごっこ，昔遊びなどを実施している。

６年生が中心になり，整列の仕方や遊び方などを下級生に優しく教え，交流を深めている。異学年との交流する機会を得て，高学年のリーダーとしての意識が芽生えるとと

縦割り班交流

もに，普段外遊びが苦手な子どもたちも自然に溶け込み，異学年と遊ぶ楽しさを感じる時間となっている。

エ　地域との交流

運動会で，毎年４年生が中心となって高齢者との競技種目『じゃんけん列車』を実施し交流の場としている。また，地域の９月の敬老会では，全校児童が高齢者の方々へ手紙を出して交流している。また，敬老会や１０月の水木秋祭りでは，学校の代表として３年生や４年生が『水木っ子ソーラン』の発表で参加し地域の方々と交流を深めている。

敬老会

オ　３年生「人権教室」の開催

今年度は，３学年を対象に行われた。いじめに関するDVDを鑑賞したあと，登場人物の気持ちを考えながら，いじめを見たらどうすればよいかなどについて意見交換をした。児童からは「いじめを見たら先生に伝える。」「注意をする。」など具体的な行動が示された。

児童一人一人が，いじめについて深く考えるよい機会となった。

人権教室

（２）人権に関する啓発活動

ア　「人権メッセージ」の実施

夏休みの課題として人権メッセージを募集した。「人権メッセージ」は，児童が人権について考えるきっかけとなる有効な方法である。自分なりの考えや思いを自分のことばで表現することで，人権意識が高まっていくと考えられる。

イ　道徳コーナー「こころのまど」の設置

道徳における友達の意見や道徳に関する資料を掲示して，友達の良さや多くの感動体験を共感できるようにしている。

ウ 各種たよりの発行

学校だよりや生徒指導だよりを通して，保護者や地域の方々にも人権教育に関する本校の取り組みについて知らせ，理解啓発を図っている。

３　研究の成果

（１）「いじめ０運動」は，家族での話し合いからスタートしたことで，子どもたちだけでなく家族の思いや願いが込められた有意義な活動となった。のびのびタイムでは，縦割班の遊びを教えてもらうことを通して，下級生は素直に上級生の意見を聞くことができ，フォロアーシップを発揮することができた。

（２）　地域と密着した継続的な体験活動や地域の方々との交流を通して，活動に対しての励ましやねぎらいの言葉をいただき，地域への愛着と感謝の気持ちをより一層強めることができた。

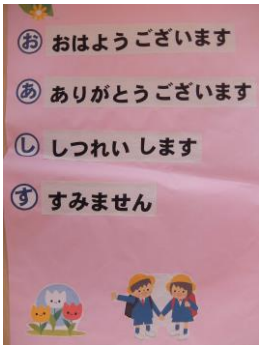
（３）　人権コーナーや道徳コーナーを進んで見る児童の姿が見られた。人権メッセージでは，人権について考えるよい機会となった。人権コーナーや道徳コーナーを設置することで，友だちの考えや思いを知り，自他の理解や尊重につながった。また，家庭で人権について話し合ったり，親子で人権メッセージを考える機会をもったりして人権教育への理解・啓発を図ることができた。

Ⅱ　今後の課題

教職員の校内研修や，家庭・地域への啓発をさらに充実させて，学校・家庭・地域連しながら，人権教育を取り組めるように努めていきたい。また，ふだんから教室内の言語環境に気を配り，児童の人権感覚や人権意識をより高め育てていきたい。

各教科や道徳の時間などの学校教育全体を通して，人権に関する学習をより一層充させ，児童一人一人の人権意識を高め，実践できる態度を育てていきたい。

Ⅲ＜人権コーナー設置の様子＞

○オアシス運動を啓発するための掲示

・おはようございます
・ありがとうございます
・しつれいします
・すみません